学校法人杏林学園 広報誌

2019 | 秋 |

あんず

Kyorin Magazine Anzu

vol.2

建学の精神「眞善美の探究」

眞　真実・真理を究めるための学問をすることです。
真実・真理に対して謙虚であるとともに、自ら進んで学び、研究することを意味します。

善　倫理観を持ったよき人間性・人格を形成することです。
他人に対してやさしく、思いやる心を持った人格を自ら築き上げて、人のために尽くすことです。

美　真理に対し謙虚に学ぶ姿勢を持ち、他人を尊重し、自らの身を持するのに厳しく、美しいものを美しいと感じる感性を磨くよう努めれば、自然に美しい立派な風格のある人間に成長していくことを意味しています。

あんず

2019 秋 | vol.2 |

Contents

04 …… キャンパスカレンダー
06 …… 平成30年度 事業報告
07 …… 平成30年度 決算報告
08 …… 同窓会会長からのご挨拶
10 …… 学部情報
　医学部
　保健学部
　総合政策学部
　外国語学部
14 …… 留学・国際交流
15 …… キャリア支援
16 …… 地域交流・貢献活動、高大接続
17 …… 学生表彰
18 …… 医学部付属病院
19 …… 杏林大学オリジナルグッズのご案内
　杏林大学公開講演会

キャンパスカレンダー
2019.4-2019.10

4月

2019年入学式
4月7日、1,387名の新入生を迎える

5月

新入生歓迎会
井の頭キャンパスで新入生歓迎会を開催

6月

入院患者さんへあんずゼリーを提供
6月14日の夕食で521名の入院患者さんへ敷地内で収穫されたあんずの実のゼリーを提供

7月

8月

2018年度優秀学生表彰
優秀学生として、4学部計50名の学生を7月に表彰

9月

10月

春の国際交流の集い
7月3日に井の頭キャンパスで開催。テキサスA&M大学インターンシップ生を含む留学生36名、在学生80名、教職員42名、計158名が参加し、親睦を深める

2019年度オープンキャンパス
6月から8月にかけて開催され、来場者数は昨年度比9%増、計7,800人を超えました。
学部ごとに、学部説明や入試説明、模擬講義、教員・在学生との個別相談などのイベントが行われたほか、留学相談やライティングセンターの体験なども実施されました。
11月30日(土)には、総合政策学部・外国語学部でナイトオープンキャンパスを開催します。

【学部別来場者数】医学部:635人　保健学部:5,064人　総合政策学部:703人　外国語学部:1,418人

外国語学部坂本学部長による学部説明

保健学部臨床検査技術学科での体験実習

医学部松田教授・副理事長による学部説明・模擬講義

総合政策学部教員による個別相談

学生広報スタッフの活動
2018年度からスタートした「学生広報スタッフ」は、現在、総合政策学部、外国語学部、保健学部の学生約30名で活動しています。オープンキャンパスでは、個別相談コーナーや井の頭キャンパスツアーなどを行い、高校生達にも好評でした。

2019年9月卒業式
9月13日、三鷹キャンパスで挙行。学部生、大学院生、計29名が卒業

2019年9月入学式
9月17日、井の頭キャンパスで挙行。留学生5名を含む15名の学部生、大学院生が入学

リーダーズキャンプ
長野県で、公認クラブ同好会の次期幹部候補学生58名が合宿でグループワークなどを行い、リーダーの心得を養いました

医学部管弦楽団が第25回院内コンサート
10月5日に医学部管弦楽団が付属病院でコンサートを開催。部員約50名の演奏に加え、渡邊卓医学部長がピアノ演奏を披露し、患者など約150名の来院者がひとときを楽しみました

平成 30 年度　事業報告

Ⅰ. 学校法人の概要（抜粋）

区　分		平成30年度		
設置する学部等		大学院：3研究科14専攻　学部等：4学部15学科　1専修学校		
学生数（収容定員）（人）		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		5,279 (5,079)	5,453 (5,254)	5,536 (5,419)
教職員数（人）	本務教員（兼務教員）	691 (325)	694 (298)	706 (306)
	本務職員（その他職員）	2,410 (57)	2,353 (53)	2,307 (56)
	合計	3,101 (382)	3,047 (351)	3,013 (362)

Ⅱ. 事業の概要《主要実施事業抜粋》

区　分		平成30年4月　事業計画	平成31年3月　事業報告
教育・研究活動	医　学　部	【医師国家試験対策の充実に向けた取り組み＜継続＞】 平成28年度から稼働を開始した医学教育センター「国家試験対策室」を中心に、卒業生全員が医師国家試験に合格できる態勢の整備に引き続き取り組む。	①試験問題の検証作業の継続、②外部模擬試験の積極的な活用と結果のフィードバック、③6年次の「臨床総合演習」で過去医師国家試験出題の重要事項を中心とした講義を実施、④成績下位者を対象とした合宿（集中講義）の実施、⑤教員と担任がペアを組み学生面談を実施、⑥保護者を含めた三者面談の実施 〈国試結果〉平成31年3月　95.7%（新卒97.3%）全国平均89.0% 平成30年 〃　96.4%（ 〃 98.4%）　〃　90.1% 平成29年 〃　85.6%（ 〃 90.8%）　〃　88.7%
	保 健 学 部	【教育方法の見直し】 講義において一方向の授業から双方向の授業への転換を図る。 【入学試験の見直し】 新制度入試に向けて入試のあり方を検討する。	講義において学生に考えさせ、論述させる双方向性の授業を取り入れ、一方向の授業から双方向の授業への転換を図った。 新制度入試を見据え、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を適切に評価するための入学者選抜について検討を進めた。 意欲ある学生の確保を目的としてAO入試を全学科導入した。
	総合政策学部	【新カリキュラムのレビュー及び改善点の検討】 新カリキュラム導入後2年間が経過するが、この間の実施状況につき学部全体でレビューを行い、①直ちに実施可能な改善点、②将来のカリキュラム再編時のための中長期的改善点に分類したうえで、学部のカリキュラム・ポリシーの実現にふさわしい教育内容の一層の整備に努める。	専任教員からの選出委員による未来構想委員会を組成し、学部を取り巻く環境変化を踏まえた諸課題につき集中的な検討を行い、中長期的な方針や短期的な改善策を取りまとめ、今後の学部教育の方向性に係る共通認識を醸成。
	外国語学部	【日中英トライリンガル人材育成の継続と加速】 グローバル人材育成推進事業の補助期間終了後、APプログラム（高大接続）を引続き国際交流センター、国際交流課、高大接続推進室と連携して、日中英トライリンガル人材育成の加速、具体的成果の伸長を図る。	学内のグローバル化を進め中国圏だけでなく英語圏からのインバウンドの留学生増加を図るため、2017年度からTEXAS A&M 大学の夏季日本語・日本文化研修プログラムを実施し留学生を受け入れ、2018年度は、TEXAS A&M の学生と他大学からの学生計18名が参加。
就 職 状 況		【キャリア教育・就職支援の充実強化】 キャリアサポートセンターでは学部・学科や保護者、同窓会、地域企業等との連携を強めながら、キャリア教育・就職支援を一層充実強化し、就職率、学生の満足度の向上を目指す。	模擬採用選考等の就職支援の実施。文系2学部では学内説明会に招いた企業の40%余りから内定を得るなどイベントが効果的に就職に結びついた。キャリアサポートセンターが学部教員と連携して、就職希望学生は最後の一人まで面倒を見るという活動を徹底した。 〈就職率〉保健学部　96.7%（前年度 97.7%） 総合政策学部　98.9%（前年度 100%） 外国語学部　99.4%（前年度 98.9%）
入 試 状 況		1) 新規高校からの志願者獲得 2) 総志願者数15,000人を目指す 3) 受験者・保護者及び高校教員へのアプローチを強化 4) オープンキャンパス・進路相談会の充実 5) 入学試験の円滑な運営を図る	通学圏内の高校をはじめ、実績のある地区を重点訪問。学内刊行物の充実と業者刊行物やSNS等のWeb企画を有効活用し、受験者（1、2年生も含む）・保護者及び高校教員へのアプローチを強化。 〈総志願者数〉平成30年度　17,181名(平成31年度入学) 平成29年度　14,924名(平成30 〃) 平成28年度　15,045名(平成29 〃)
付 属 病 院		【健全な病院経営と運営】 地域のニーズ変化に対応した診療体制の見直しと人員配置	手術内容の変化に対応するため、各診療科に長年固定化された手術枠の見直しを行い、実際のニーズに対応すべく自由枠を増設。
		【特定機能病院に求められる医療安全・感染対策管理体制の充実と推進】 研修医を含む職場への医療安全教育の強化	医療安全、感染対策についてリスクマネージメント講習会で講演会後に小テストを行い周知の徹底。 医学生や研修医に対して医療安全の講義による教育強化。
		【医療連携機能の強化】 近隣医療施設との連携強化と役割分担の明確化	「第3回医療連携フォーラム」を実施し、院外参加者は約3割増加。登録医：約420名、医療機関：約370施設
		【職員の勤務環境の改善】 医師事務作業補助者の雇用による医師業務負担軽減	医師事務作業補助者を増員（計22名）し40:1体制とし、勤務環境改善委員会とも連携して医師業務負担の軽減を行った。
		【研修体制の改善】 研修医を対象とした救命処置講習の充実	心肺蘇生術（BLS）や「酸素吸入のための基礎知識と器具の正しい使い方」の講習、外科縫合講習、CVC実技試験等、救急救命や緊急処置に対応する能力の向上を図った。

事業計画・報告の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

平成 30 年度　決算報告

■ 資金収支計算書の概要

総資金収入は636.02億円、総資金支出は575.97億円の規模である。平成30年度の前年度繰越支払資金は41.19億円。また、平成30年度決算の翌年度繰越支払資金は、61.29億円となり、20.1億円の資金が増加した。

＜資金収支＞

収入の部　（単位：億円）

科　目	30年度予算	30年度決算	差　異
学生生徒等納付金収入	107.59	107.72	△ 0.13
手数料収入	5.73	5.87	△ 0.14
寄付金収入	3.93	4.45	△ 0.52
補助金収入	22.20	21.65	0.55
資産売却収入	0.00	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	6.16	5.48	0.68
医療収入	356.92	361.59	△ 4.67
受取利息・配当金収入	0.10	0.10	0.00
雑収入	4.74	4.58	0.16
借入金等収入	20.00	20.00	0.00
前受金収入	17.95	16.95	1.00
その他の収入	70.71	87.58	△ 16.87
小　計	616.08	636.02	△ 19.94
資金収入調整勘定	△ 74.82	△ 82.29	7.47
前年度繰越支払資金	41.90	41.19	0.71
収入の部合計	583.16	594.92	△ 11.76

支出の部　（単位：億円）

科　目	30年度予算	30年度決算	差　異
人件費支出	220.50	220.11	0.39
教育研究経費支出	30.33	29.07	1.26
医療経費支出	172.99	173.23	△ 0.24
管理経費支出	26.98	27.58	△ 0.60
借入金等利息支出	1.86	1.95	△ 0.09
借入金等返済支出	32.16	32.16	0.00
施設関係支出	11.97	9.04	2.93
設備関係支出	9.30	9.16	0.14
資産運用支出	16.94	27.02	△ 10.08
その他の支出	47.18	46.61	0.57
小　計	570.25	575.97	△ 5.72
資金支出調整勘定	△ 41.77	△ 42.34	0.57
翌年度繰越支払資金	54.67	61.29	△ 6.62
支出の部合計	583.16	594.92	△ 11.76

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

＜事業活動収支＞

（単位：億円）

※	減価償却額合計（教育活動収支に含む）	48.79	48.50	0.29
内訳	教育研究経費	16.04	16.08	△ 0.04
	医療経費	28.16	27.83	0.33
	管理経費	4.58	4.57	0.01

■ 事業活動収支決算の概要

事業活動収入計は511.83億円、事業活動支出計は505.28億円である。その結果、基本金組入前当年度収支差額は6.55億円の収入超過となった。基本金を組み入れた後の当年度収支差額は△12.91億円。平成30年度の前年度繰越収支差額△826.92億円より、基本金取崩額6.49億円を控除して、翌年度繰越収支差額は△833.33億円となった。

＜事業活動収支＞

（単位：億円）

		科　目	30年度予算	30年度決算	差　異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	107.59	107.72	△ 0.13
		手数料	5.73	5.87	△ 0.14
		寄付金	3.99	4.50	△ 0.51
		経常費等補助金	18.81	19.13	△ 0.32
		付随事業収入	6.16	5.48	0.68
		医療収入	356.92	361.59	△ 4.67
		雑収入	4.69	4.55	0.14
		ア）教育活動収入計	503.92	508.87	△ 4.95
	事業活動支出の部	人件費	224.29	223.25	1.04
		教育研究経費	46.81	45.71	1.10
		医療経費	201.15	200.98	0.17
		管理経費	31.56	32.14	△ 0.58
		徴収不能額等	0.01	0.06	△ 0.05
		イ）教育活動支出計	503.84	502.15	1.69
	A）教育活動収支差額		0.08	6.71	△ 6.63
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	0.10	0.10	0.00
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00	0.00
		ウ）教育活動外収入計	0.10	0.10	0.00
	事業活動支出の部	借入金等利息	1.86	1.95	△ 0.09
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00	0.00
		エ）教育活動外支出計	1.86	1.95	△ 0.09
	B）教育活動外収支差額		△ 1.76	△ 1.85	△ 0.09
経常収支差額（A+B）			△ 1.67	4.86	△ 6.53
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0.00	0.00	0.00
		その他の特別収入	3.68	2.86	0.82
		オ）特別収入計	3.68	2.86	0.82
	事業活動支出の部	資産処分差額	1.58	1.14	0.44
		その他の特別支出	0.00	0.02	△ 0.02
		カ）特別支出計	1.58	1.17	0.41
	C）特別収支差額		2.09	1.68	0.41
〔　予備費　〕			0.00	0.00	0.00
基本金組入前当年度収支差額（A+B+C）			0.41	6.55	
基本金組入額			△ 27.44	△ 19.46	
当年度収支差額			△ 27.02	△ 12.91	
前年度繰越収支差額			△ 857.83	△ 826.92	
基本金取崩額			0.00	6.49	
翌年度繰越収支差額			△ 884.86	△ 833.33	

事業活動収入計（ア＋ウ＋オ）	507.71	511.83
事業活動支出計（イ＋エ＋カ＋予備費）	507.29	505.28
事業活動収支差額（A＋B＋C）	0.41	6.55

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

予算・決算の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

2019年6月 就任教授

保健学部 診療放射線技術学科
天沼　誠

保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻
佐々木　裕子

同窓会会長からのご挨拶

杏林学園の卒業生は、学園が半世紀の歴史を重ねるなかで3万8,000人を超え、国内外のさまざまな分野で活躍しています。

医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の同窓会は、定期的な総会や刊行物の発行などを通じて卒業生同士の交流を続けています。

一方、総合大学として4つの学部の同窓会が連携を図っていこうという動きも見られるようになりました。学園が社会に貢献する人材の育成という使命を果たし、継続的に発展して行くためには、こうした卒業生の支援が欠かせません。

学園では今後も一層、卒業生、同窓会との連携を深めていきます。今号では、各学部がさまざまな周年記念を迎えているのを機に、各同窓会の会長からのご挨拶を紹介します。

1966年開設当時の杏林学園短期大学

1970年医学部開設

1980年頃の八王子キャンパス

医学部同窓会 会長
幾瀬 貫
Ikuse Toru

総合大学としての杏林大学同窓会

杏林学園は2016年に創立50周年を迎え、医学部も来年で50周年となります。

医学部同窓会は、同窓会員への研究助成、学会主催への援助、留学援助、学生の海外研修援助、クラブ活動への援助など様々な活動を行っておりますが、基本は会員相互の親睦、後進への便宜、医学部の発展に寄与することであります。

私立医学部は、全国私立医科大学同窓会連絡会を毎年開催して、他校との連携において同窓会の在り方、活動内容の情報交換などを行い、より良い同窓会として活動を協議しておりますが、そのなかで学内において他の学部同窓会と親密に連携を取っている大学は見受けられませんでした。

杏林学園の広報誌であります「あんず」には全ての学部の活動が記載されており、杏林学園は活力のある総合大学であることを実感させられました。これからの時代は同窓会も他学部との連携により活動を広めることができるのではと考えております。

よろしくお願い申し上げます。

保健学部
同窓会 杏里会 会長
森田 耕司
Morita Koji

4学部同窓会の連携を目指して

保健学部は開設から40年、杏里会は創立から35年が過ぎました。杏里会は1983年に、保健学部1期生100名と旧杏林短期大学衛生技術科同窓会（会員数1,678名）との合同同窓会組織として発足し、現在の会員構成は短期大学時代から通算して50期、会員数は10,000人を超えています。

臨床検査技術学科と保健学科（現健康福祉学科）の2学科でスタートした保健学部も、現在は9学科2専攻を擁する医療福祉系総合学部に成長しました。杏里会は、発展を続ける保健学部と卒業生のパイプ役として「在学生への支援」と「卒後教育事業の支援」を重要な事業と位置づけています。

井の頭キャンパスへの移転の際には、杏門会（社会科学部・総合政策学部同窓会）、外国語学部同窓会との共催による「さよなら八王子セレモニー」を開催し、3学部同窓会の連携を誓い合いました。

現在はさらに発展し、「ホームカミングデー」の開催など、医学部を含めた「全学部同窓会による連携事業」の実現に向けて検討を進めています。

学園教職員・関係者の皆様におかれましては、今後とも杏里会の活動に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

社会科学部・総合政策学部
同窓会 杏門会 会長
鈴木 雅博
Suzuki Masahiro

母校と共に発展する同窓会組織に

杏林大学初の文系学部として1984年に開設した社会科学部は、2002年に改組して総合政策学部にその名称を変更し、今年で創設35年目を迎えました。1988年に第一期生の卒業生とともに「社会科学部卒業生の会」として発足した同窓会は、2002年に名称を「杏門会」として以来、会員数9,000名を超えるまでになり、昨年は井の頭キャンパスで設立30周年を記念した「卒業生のつどい」を開催することができました。

杏門会は目的のひとつに母校との情報交換があります。前回、広報誌あんずを杏門会会員にお送りし、総合政策学部だけでなく、杏林大学全体が発展を遂げている様子をお伝えすることができたのではないかと思います。

同窓会組織を通じて、母校との連携を強固なものとし、さらには他学部同窓会とも協力しあって、大学の進歩・発展に寄与していく所存です。

今後も皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

外国語学部同窓会 会長
盛林 秀一
Moribayashi Shuichi

大学と一体となって

平素より皆様には外国語学部同窓会運営へのご支援を賜り、ありがとうございます。昨年末に学部開設30周年記念式典を滞りなく挙行できたのも、皆様のご理解とご協力によるものと、心より深く感謝申し上げます。

同窓会も活動を始めてから27年目となりました。同窓会活動初期の頃は、歴史が浅いだけに会員の年齢も若く、時間と余裕のない中で活動が十分にできませんでしたが、それはやむをえないことでした。限られた中でも、継続して活動していくことによって、内容を進化させることができると信じて、今日まで進めてまいりました。

一方で、校舎が八王子から井の頭に移転したことは、同窓生における母校への認識に少なからず変化が生じた出来事だったと思います。

同窓会としては、母校の卒業生であるという、場所や年代を越えた「絆」によって結ばれ、会員同士が交流できる場を提供し続けたいと考えています。今後も大学支援事業や寄付など、大学と一体となった情報発信や各種活動を展開してまいります。皆様の益々のご支援・ご協力をお願いいたします。

医学部

三鷹キャンパスの将来構想 検討チームで議論始まる

井の頭キャンパスの整備に続いて、医学部を中心にした三鷹キャンパスの将来構想（グランドデザイン）を検討するプロジェクトがスタートしました。メンバーは松田剛明副理事長や渡邊卓医学部長を始め、医学部と保健学部の教育部門の教員らを中心に構成されています。

9月に開かれた初会合では、病院北側の新校地で建設が検討されている医学部関連棟のあり方について意見が交わされ、講義室など遅れている学生の教育環境の改善を最優先に進めるべきだという声が多く聞かれました。

一方、現在の三鷹キャンパスにある講義棟や研究棟については、どのような優先順位で建て替えなど整備を進めていくかについても広く学内に意見を求め、検討を重ねていくことになりました。

グローバルに活躍できる医師を目指して「実践英語」をスタート

医学部では、国際的な視野をもつ医師を育成するため、「医学英語」の授業や海外臨床実習などを充実させています。

2019年度からは、外国語学部専任教員が指導する「実践英語」を1･2年生のカリキュラムに導入しています。語学試験「TOEFL ITP」の問題を用いながら、「読む、聞く、書く、話す」の4技能を磨いていきます。

ニュース

精神科治療の統一ガイドライン「EGUIDEプロジェクト」で普及はかる

精神神経科学教室の渡邊衡一郎教授や国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター等の研究グループは、2016年から、医師への精神科治療ガイドラインの普及・教育を行い、その効果を検証する研究、「EGUIDEプロジェクト」を実施しています。本プロジェクトでガイドラインの講習を行い、効果検証をしたところ、理解度に顕著な向上が認められました。このプロジェクトは現在、43大学と130以上の医療機関が参加する世界でも例のないプロジェクトに発展しており、次の段階として、理解したガイドラインの実践度や向精神薬の処方行動の調査などを開始しています。

本研究成果は、「Psychiatry and Clinical Neurosciences」オンライン版に8月に掲載されました。

ニュース

病理学教室の研究グループ 先天性甲状腺機能低下症の新規原因遺伝子の機能を解明

病理学教室菅間 博教授の研究グループは、名古屋市立大学齋藤伸治教授の研究グループ等と共同で、先天性甲状腺機能低下症の新規原因遺伝子SLC26A7の機能を解明しました。

甲状腺ホルモンの原料のヨウ素が特異に貯蔵される甲状腺濾胞の細胞に、SLC26A7分子が発現され、ヨウ素を運ぶ輸送分子として働いていることを特定しました。また、甲状腺腫を伴う特徴的な経過を示す先天性甲状腺機能低下症の兄妹例において、SLC26A7遺伝子の変異を同定しました。これによって甲状腺ホルモンの合成に必要不可欠なヨウ素を甲状腺濾胞内へ輸送、貯蔵するメカニズムが解明されました。今後、甲状腺機能低下や甲状腺腫の治療への応用が期待されます。本研究成果は、7月、Natureの姉妹誌「Communications Biology」に掲載されました。

第17回日本消化器外科学会大会 市民公開講座を開催

消化器・一般外科学教室 正木忠彦教授は、今年度、日本消化器外科学会大会の会長を務めています。

7月には、市民向け公開講座「がんから身を守るために」を大学院講堂で開催し、上部消化管外科 阿部展次教授、下部消化管外科 須並英二教授、肝胆膵外科 阪本良弘教授が登壇しました。

さらに特別企画として、さだまさし氏によるミニコンサートを行いました。230名以上の来場者からは、今後も消化器系がんの講演会の開催希望があがるなど、好評を博しました。

11月21日‐24日には、「第27回日本消化器関連学会週間」として外科･内科系5つの学会が神戸で一堂に会し、セッションなどを行う予定です。

保健学部

開設40周年記念祝賀会を開催

1979年に開設された保健学部は今年40周年を迎えました。

9月14日（土）には、「開設40周年記念祝賀会」が新宿の京王プラザホテルで開催され、同窓生約400名を含む、来賓・学園関係者など約900名が来場しました。会場では、学部の歴史を辿るスライドが上映され、卒業生がスピーチをしたり、銘々が思い出話に花を咲かせ、賑やかな会となりました。

岩手県の医療施設見学実習を実施

理学療法学科では新たな試みとして、早期から医療人としての意識を高め、地方でのリハビリの現状を学ぶことを目的に、岩手県の医療施設で見学実習を実施しました。

8月に1年生58名と教員4名が、岩手県で中核を担うリハビリテーション施設や介護施設から病院まで高齢者のワンストップサービス機能をもつ施設などを見学し、急性期から地域生活支援までの広い分野での理学療法士の役割について学びました。

ニュース

韓国 乙支大学看護学部と学術交流協定結ぶ

2008年に大学間での学術交流協定を締結した乙支大学と、看護分野での連携を深めるため、4月に新たに学部間での学術協定覚書を交わしました。

乙支大学は、実績のある乙支医科大学と国内最初の保健分野の専門大学であるソウル保健大学が2007年に合併した、韓国で最初の保健･医療総合大学です。

ニュース

エルサルバドルの救急救命体制強化を支援

JICA（独立行政法人国際協力機構）の依頼で、医学部付属病院高度救命救急センターと保健学部救急救命学科は、エルサルバドルの病院前救急医療システムの運用を支援しています。

昨年度に続き今年4月には、同国の保健省、国家文民警察、消防隊などから8名が訪問し、施設や救急救命学科の実習などを視察し、意見交換を行いました。

総合政策学部

ポートランド州立大学生と防災のフィールドワークを実施

三浦秀之准教授のゼミでは、協定校である米国ポートランド州立大学と防災の街づくりについて学ぶフィールドワークを2017年度から実施しています。

今年は6月に教員を含む13名が来日し、宮城県石巻市の被災地を見学したり、都内の企業などを視察し、防災対策を学びました。

GCP（Global Career Program）の学生が留学生へプレゼンテーション

総合政策学部では、グローバルに活躍できる人材を育成するGCPを2016年に開始しました。今年度は新たに45名の1年生を迎え、現在135名の学生がプログラムを専攻しています。

6月には、米国テキサスA&M大学の学生20名を交えた授業が行われ、グループごとに英語で日本の文化などをプレゼンテーションしました。

ゼミ合同で SDGs ワークショップを開催

7月に川村真理教授と三浦秀之准教授のゼミが合同で、持続可能な開発目標（SDGs）の理解を深めるワークショップを開催しました。

「X（クロス）」というカードゲームを使用し、学生達はトレードオフカードに書かれた、SDGs達成のための取り組みで生じた課題を、リソースカードにある様々なアイテムを駆使して解決策を導き出していきました。

本番に近い環境で、就活トライアルを実施

学部独自のプログラムとして、本番に近い環境で就職活動を体験する「就活トライアル」を年2回実施しています。

今年度1回目の講座が6月に実施され、3年生が企業の採用担当者による集団面接とグループディスカッションを行いました。その後、収録映像を見ながら、担当者から指導を受けました。

硬式野球部AO入試を実施

総合政策学部では、野球部への入部希望者を対象とした、タイプⅢ（スポーツ型）AO入試を実施しています。

8月22日、23日に八王子キャンパスのグラウンドで行われた実技試験には、北海道や東海地方などから高校生42名が参加し、シートノックやバッティングなどを野球部所属の1年生のサポートを受けながら行いました。

野球部の練習試合風景

ニュース

2年生の相澤さんがライフセービング国際大会に出場

ライフセービング部に所属する2年生の相澤虎大さんは、6月に福岡市で開催されたライフセービングの国際大会「三洋カップ2019」に、日本代表チームとして出場しました。

相澤さんはじめ若手強化育成選手で構成される日本Bチームは、ボードレース等、個人・団体種目でオーストラリア等世界のトップチームと競い、総合成績5位と健闘しました。

外国語学部

テキサスA&M大学生と交流

外国語学部は、日本語・日本文化研修と英語教育インターンシップなどを目的とした米国テキサスA&M大学の学生を受け入れています。

今年度は、23名の学生が、5月から8月初旬にかけて来訪し、英語学科の嵐 洋子准教授の日本語教育の授業に参加をしたり、日本語サロンで外国語学部の学生と交流しました。

観光交流文化学科独自のインターンシップ

観光交流文化学科では学科独自に開拓した企業で毎年度夏春にインターンシップを実施しています。

今夏も17名の学生が、旅行業・航空業・宿泊業などを中心とした11のプログラムに参加しました。

【学生の感想】

実施先：株式会社グローバルユースビューロー（旅行業）

●3年生 大塚彩沙（写真左）

1つのツアーを提供するために社内のコミュニケーションがいかに大切かを学びました。

● 3年生 加賀井子（写真中央）

常に「お客様のために」を実践し続ける社員の皆さんの姿に心を打たれました。

四川大学の国際交流サマーキャンプに参加

中国語学科の3・4年生15名が、6月から7月の12日間、中国 四川大学が開催する国際交流サマーキャンプに参加しました。サマーキャンプは、世界各国の大学が招待される大規模なもので、中国語学科 宮首弘子教授が同大学の卒業生であることから本学も招待を受けました。

日本語・中国語による討論会、課題発表などを通して、交流を深めた他、宮首教授による同時通訳の講義や企業見学なども実施されました。

英語学科教員の出版を記念したイベント開催

好評を得ている英語学科教員の書籍出版を記念して、8月から9月にかけて吉祥寺周辺の書店でブックフェアが開催されました。

また、10月には丸の内KITTEにあるカフェ兼イベントスペースで合同トークイベントが開催されました。

【著書】

・「FACT FULNESS（ファクトフルネス）」 関 美和 准教授 訳

・「ヘミングウェイで学ぶ英文法」 倉林秀男 准教授 著

・「英文解体新書」 北村一真 准教授 著

3学科生が参加、中国語学内研修を開催

中国語のステップアップを目指した学内研修が、井の頭キャンパスで8月に実施されました。中国語学科生32名、英語学科・観光交流文化学科の学生10名、計42名が参加し、レベル別に文法や検定対策を行ったり、中国人留学生と会話練習を行うなど、中国語漬けの有意義な2日間を過ごしました。

留学・国際交流

本学では、海外で専門領域の体験や視察、異文化交流や語学の研鑽などを通して、
高い専門性の修得や国際社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

2019年度 海外研修・留学参加学生延べ人数（2019年10月現在）
計160名（医学部：26名、保健学部：19名　総合政策学部：21名、外国語学部：94名）

医学部

海外クリニカルクラークシップ（臨床参加型実習）
フィリピン サント・トマス大学病院

マニラにあるサント・トマス大学との学生相互受入れを開始しました。5月には、医学部生1名が産科、婦人科で4週間の実習を行い、外来・手術見学、カンファレンスに参加するなどしました。

保健学部

オーストラリア クイーンズランド大学研修

理学療法学科4年生12名が、8月に9日間の研修を行いました。同大学理学療法学科の講義を受けたり、州立病院等を見学し、現地の医療・福祉の現状や遠隔リハビリテーションなどについて学びました。

総合政策学部

タイ チェンマイラチャパット大学

1924年に創立された、教育学部、人文・社会科学部、農学部などを擁する大学で、8月から12月まで3名の学生が英語を学び、国際交流を体験しています。

外国語学部

中国 上海外国語大学

中国の中でも留学生教育を早期に始めた大学で、国際色豊かな留学生と寮生活を共にしながら、約4ヶ月間、中国語を学びます。今年は9月から来年1月まで5名の学生が参加しています。

【奨学金】

2019年度前期
保護者会「杏会」海外留学奨励金

保護者会からご支援を賜り、多くの学生が海外で学んでいます。皆様のご支援に御礼申し上げます。

総合政策学部	12名
外国語学部	25名

2019年度前期
杏林大学 海外研修・留学奨学金

海外で学ぶ学生を支援する制度です。
留学期間や学業成績などを考慮し、支給額が決定されます。

総合政策学部	15名
外国語学部	46名

【海外協定校】

本学では、北アメリカ、アジア、オセアニア、ヨーロッパなど様々な地域の大学等と協定を結んでいます。
その数は2019年10月現在、16カ国・地域、56大学・研究所になります。

■2019年度新規締結

●韓国 乙支大学看護学部（2019年4月）

乙支大学とは2008年に大学間での学術交流協定を締結していますが、看護分野での連携を深めるため、保健学部と学術協定覚書を交わしました。

●イタリア フィレンツェ大学（2019年7月）

医学部と保健学部で、主に臨床病理学の分野における交換プログラムを実施するために学術交流協定を締結しました。

キャリア支援

学生主体のキャリア支援研究会を開催

キャリアサポートセンターは学生を主体とした3つの「研究会」を支援しています。
「就職活動研究会」は全学年を対象に、必要な知識の習得や自己分析、業界企業研究などの活動をしています。「公務員受験研究会」は、警察官や消防士、一般行政職など公務員試験に向けた筆記対策や面接対策を行います。「留学生就職活動研究会」では、日本での就職希望者を対象に、就職活動の留意点を学び、サービス機関を訪問したりします。4月にガイダンスが行われ、来年2月頃まで各研究会での活動が続きます。

学内資格講座で学生の資格取得を支援

キャリアサポートセンターでは国家資格をはじめとする様々な資格取得の対策講座を開講しています。
今年度前期には8つの講座を開講し、200名以上の学生が資格取得を目指し励みました。後期は、10・11月頃から6つの講座が開講予定です。

■ 前期 実施講座	
国内旅行業務取扱管理者資格	MOS（Excel2016）講座
総合旅行業務取扱管理者資格	カラーコーディネーター3級受検対策
秘書技能検定2級対策講座	ITパスポート講座
TOEIC対策講座（基礎編）	公務員講座（警察・消防）

■ 後期 実施講座	
海外ツアーコンダクター資格取得講座	TOEIC対策講座（発展編）
リテールマーケティング（販売士）2級対策講座	MOS（Word2016）講座
世界遺産検定2級対策講座	公務員試験対策入門講座

総合政策学部・外国語学部でインターンシップを実施

総合政策学部・外国語学部の2・3年生を対象に、正課科目として「インターンシップ」を開講しています。
今年は50名の学生が、前期にマナー講習や業界企業研究を行った後、夏休み期間に1・2週間のインターンシップを実施しました。その後、9月から11月にかけて、各学部で体験報告会などの事後講座が行われています。

保健学部学科別就職ガイダンスを実施

保健学部では3・4年生を対象に学科別の就職ガイダンスを年2回実施しています。
5月から6月に実施された1回目では、各分野で活躍する卒業生から仕事の内容や就職活動体験談などを紹介してもらいました。9月に行われた2回目では、各分野の採用担当者を招き、採用試験や求める人物像などの説明を受けました。

大瀧学長と学生の懇談会を開催

杏林大学では、学長と学生との懇談会を実施しています。
2019年度は、5日間かけて学部ごとに行いました。各学部の代表学生数名、計55名の学生と大瀧純一学長が、昼食を共にしながら、学業や学生生活などについて話をしました。
大瀧学長は、学生達へ「これからはより一層個人の力が問われてくる」「自分の力をつけるために、知識や経験が豊富な教員をどんどん活用して」などのアドバイスを送りました。

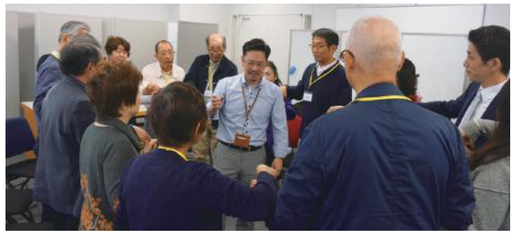
地域交流・貢献活動

4学部合同授業「地域と大学」を実施

4学部の1年生が共通で学ぶ必修科目「地域と大学」が前期に開講されました。

授業では、市の職員をゲスト講師に迎えたり、フィールドワークを行うことで、地域の現状を把握し、本学の役割を理解していきます。その上で、多文化共生やオリンピックレガシーの活用法などについて、グループディスカッションなどを行い、課題解決力を養っていきました。また、4週にわたり全学部生合同の授業も行われ、ワークショップなどを通して互いの学問領域に触れ、視野を広げていきました。

地域活性化を目指す社会人向け講座を開講



本学では社会人を対象とした「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」を開講しています。今年度は14名が学生と共に講義を受けたり、フィールドワークを通して、地域での活動の知識・技術を学んでいます。

救急救命学科の学生が中学校で一次救命処置を指導

保健学部救急救命学科の2･3年生延べ27名が、6月、7月に三鷹消防署員と共に、三鷹市立中学校3校で約470名の生徒に、一次救命処置（BLS）の指導を行いました。受け入れ校の教員からは、「生徒にとって大学生から指導を受けることはとても良い経験です。今後もぜひお願いします」などの感想が寄せられました。

高大接続

杏林大学は、文部科学省「大学教育再生加速プログラム」テーマⅢ（高大接続）に平成26年度に採択されました。

日英中トライリンガル人材の育成という本学の取組みを活かし、高校と連携しながら、生徒の育成や高校と大学をつなぐ教育方法の検討などを行っています。

高校生対象 夏期集中アドバンストプレイスメント科目を開講

本学では高校生が大学の講義を受講し、入学後に単位認定が可能となるアドバンストプレイスメントを実施しています。

8月に、「近代史と現代社会」「基礎生物学」など6科目が開講され90名の高校生が受講しました。

在学生と高校生が英語キャンプで交流

8月の2日間、英語ネイティブ教員による英語キャンプを井の頭キャンパスで開催しました。外国語学部と総合政策学部の学生36名と高校生8名が映画を鑑賞し、ディスカッションをするなど、英語を学びながら交流しました。

学生表彰

2018年度優秀学生表彰

杏林大学では優秀な学生を例年表彰し、奨励金を給付しています。

2018年度は、成績優秀学生として、4学部計48名、特別表彰学生として、学部が認める資格の取得や課外活動などで顕著な功績を残した学生5名を表彰しました。（うち3名は2019年3月卒業）

三鷹キャンパス：医学部

井の頭キャンパス：保健学部、総合政策学部、外国語学部

■2018年度 成績優秀学生奨励金受給者 ※学年は2018年度時点

学部	学科	（学年）	氏名
医学部	医学科	（1）	堀江　宗
		（2）	近藤　恵太
		（3）	井上　亮太朗
		（4）	御影　杏菜
		（5）	金森　徹
保健	臨床検査技術	（1）	嶽　秀行
		（2）	須田　歩実
		（3）	平岩　珠里
	看護 看護養護教育学専攻	（1）	松岡　美里
		（2）	石黒　三貴
		（3）	中島　由衣
	看護 看護学専攻	（1）	池谷　佳奈
		（2）	笠間　公馨
		（3）	柳沢　あすか
	臨床工学	（1）	佐藤　彰洋
		（2）	
		（3）	川平　浩太郎

学部	学科	（学年）	氏名
保健	救急救命	（1）	松浦　陽介
		（2）	菅野　雄太
		（3）	春日　宏太
	健康福祉	（1）	半谷　綾香
		（2）	橋口　夏希
		（3）	近藤　健太
	理学療法	（1）	森　愛美香
		（2）	倉橋　諒
		（3）	田嶌　紗楽
	作業療法	（1）	小西　可奈
		（2）	山根　奈那子
		（3）	村上　莉佳子
	診療放射技術	（1）	合津　百華
		（2）	齋藤　航平
		（3）	小林　優斗
	臨床心理	（1）	龍　美咲

学部	学科	（学年）	氏名
総合政策	総合政策	（1）	松橋　舞
		（2）	月岡　杏菜
		（3）	寺田　龍人
	企業経営	（1）	磯野　杏菜
		（2）	藤原　詠菜
		（3）	鈴木　捺美
外国語	英語	（1）	武田　蒼依
		（2）	乙戸　智美
		（3）	岡下　瑞
	中国語	（1）	清水　美里
		（2）	市村　美奈実
		（3）	松倉　佳穂
	観光交流文化	（1）	陳　桃子
		（2）	原　千裕
		（3）	小川　涼夏

■2018年度 特別表彰学生 ※学年は2018年度時点

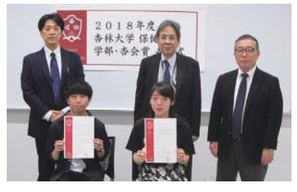
学部	学科	（学年）	氏名
保健	臨床工 救急救命	（4）	青木　拓史
		（4）	菱沼　晃大

学部	学科	（学年）	氏名
総合政策	企業経営	（4）	鮫島　菜々

学部	学科	（学年）	氏名
外国語	観光交流文化	（3）	相波　光一
		（3）	中村　玲来

2018年度学部表彰

各学部では独自に、成績優秀者や難関試験合格者、学内外の活動で活躍した個人と団体を表彰しています。



保健学部・杏会賞
◇難関資格合格者　2名
（第1種放射線取扱主任者試験合格）

外国語学部賞
◇難関資格合格者・語学試験高得点者9名（中国語検定HSK6級取得など）
◇課外活動･社会活動　4名（ライティングセンターでのチューターなど）

総合政策学部賞
◇成績優秀者　40名（各学年10名）
◇課外活動･社会活動　8名、3団体
（ゼミ連委員長の活躍など）
◇資格・検定等の合格・高得点者　2名
（教員採用試験合格など）

医学部付属病院

治療の精度を高める 高性能の放射線治療システムを導入

放射線治療・核医学棟地下2階に、高性能の放射線治療システム2機が、旧機種の更新として導入されました。

悪性腫瘍を治療する「エレクタバーサーHD」は、悪性腫瘍の部位を従来より正確に特定し照射することで、周囲の正常組織の影響を軽減し、治療の効果を高めることが期待されます。

主に婦人科腫瘍を治療する小線源治療装置「フレキシトロンHDR」は、最新の高線量率小線源治療システムで、さらに、CT画像を取得しながら治療計画を立てることで、より詳細な治療をスムーズに行うことができます。

フレキシトロンHDR は10月中に、エレクタバーサーHDは11月上旬頃から運用を開始する予定です。

左：放射線治療システム「エレクタバーサー HD」　右：小線源治療装置「フレキシトロンHDR」

最新の「採血ガイドライン」臨床検査部の研究成果盛り込み発行

日本臨床検査標準協議会（JCCLS）標準採血法検討委員会は、採血に伴う合併症や事故を回避するために、『標準採血法ガイドライン』を2004年に国内で初めて作成しました。その第3版が、臨床検査部渡邊 卓教授を委員長、同 大西宏明教授を副委員長として、2019年3月に発行されました。

これまでのガイドラインには、両教授を中心とした 臨床検査部の研究成果が反映されてきましたが、今回の改訂版でも、当院での研究をもとにして、翼状針の使用のメリットを新たに記載するなどの改訂が盛り込まれています。当院の採血室では、翼状針を採血に使用することで、患者の神経損傷を大幅に減少させ、医療事故の予防に効果が上がっていることを9年間の臨床研究で実証しました。

翼状針：黒色の翼を摘みながら採血針を刺入する

病院機能評価認定

杏林大学医学部付属病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構が定める病院機能評価の更新認定を2019年7月12日に受けました。

国内開催の世界イベントをサポート

この秋開催のラグビーワールドカップ2019では、後方支援病院に指定されました。
また、2020年東京オリンピック・パラリンピックでは競技会場の医療担当指定施設となっています。

オリンピックを前に 東京消防庁の大規模総合訓練に参加

大規模テロを想定した東京消防庁の訓練が、ラグビーワールドカップと東京2020大会の競技会場である調布市の味の素スタジアム（東京スタジアム）で、7月に実施されました。

東京消防庁管下全域の職員約3,200人、ワールドカップ2019組織委員会、東京都オリンピック・パラリンピック準備局、都立多摩総合医療センターの東京DMAT隊などと共に、当院の医師・看護師で編成する東京DMAT隊が訓練を行いました。

また、同日当院内では、傷病者の搬送を東京消防庁のヘリで行う想定の訓練が行われました。

G20大阪サミットに救急医療チームを派遣

6月に大阪市で開催されたG20大阪サミットに、高度救命救急センターの医師、看護師、職員の4名が救急医療チームとして参加しました。

当院の救急医療チームの派遣は2000年開催の九州・沖縄サミットを初回として、これまでに3回実施しています。

今回5日間の対応では、医務室で複数の他大学病院のチームと24時間のシフト制で診療活動を行いました。靴擦れや咽頭炎などの軽症患者が多く、大事に至らず任務は終了しました。

杏林大学オリジナルグッズのご案内

井の頭キャンパス（丸善書店）、三鷹キャンパス（ナチュラルローソン）で、好評販売中です。

株式会社KRLでは、オリジナル商品製作のご相談も承っています。
記念品・名入れ・ノベルティーなどお気軽にお問い合わせください。問合せ先：0422-40-1805

※デザインが変更になる場合がございます。
※金額はいずれも税抜価格です。

2019年度 杏林大学公開講演会 後期のご案内

日程	時間	所属	氏名等	講演タイトル	開催場所	定員
10月 26(土)	13:30-15:00	総合政策学部	松田和晃教授 進邦徹夫教授 木暮健太郎准教授 半田英俊准教授	黎明期 日墺関係の周辺　西園寺公望と室孝次郎	井の頭キャンパス	240名
11月 2(土)	10:30-12:00	医学部	長島文夫教授	高齢者のがん治療	井の頭キャンパス	240名
11月 2(土)	13:30-15:00	保健学部	角田ますみ准教授	私の人生予定表 満足のいく最期を描くアドバンス ケア プランニング	井の頭キャンパス	240名
11月 16(土)	13:30-15:30	医学部	石井晴之教授 他	タバコの健康障害、肺の病気を考える	杏林大学医学部付属病院	240名
12月 7(土)	10:00-11:30	医学部	滝澤 始教授	禁煙して健康寿命をのばそう！※	三鷹ネットワーク大学	100名
12月 21(土)	10:00-11:30	外国語学部	西山桂子准教授	2020年オリンピック前後のホテル産業 ※	三鷹ネットワーク大学	100名
1月 11(土)	10:30-12:00	医学部	水川良子教授	これも薬疹？　様々な薬疹の臨床から	杏林大学医学部付属病院	240名
1月 18(土)	10:20-11:50	保健学部	寺島涼子講師	からだを支える「口腔ケア」	八王子学園都市センター	216名
1月 25(土)	13:30-15:00	総合政策学部	島村直幸講師	トランプ政権の政治外交	八王子学園都市センター	216名

【参加費不要、申込み不要、先着順】※を除く　※12/7、12/21は、要事前申込み　［問合せ・申込み先］三鷹ネットワーク大学　TEL：0422-40-0313

●アクセス：**井の頭キャンパス、医学部付属病院** ▶JR 三鷹駅または吉祥寺駅、京王線仙川駅または調布駅からバス約15分～25分
三鷹ネットワーク大学 ▶ 三鷹駅前協同ビル3階
八王子学園都市センター ▶JR八王子駅・京王八王子駅 徒歩数分
問合せ：広報・企画調査室　TEL：0422-44-0611　詳細は大学ホームページをご覧ください。

あんず Anzu 2019 | 秋 |

学校法人 杏林学園

2019年10月30日発行

発　　行　学校法人 杏林学園

企画・編集　杏林大学 広報・企画調査室
〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2
TEL.0422-44-0611